

異次元金融緩和のもたらすもの

2014年11月7日

クローバー・アセットマネジメント株式会社
代表取締役社長 多根 幹雄

2014年10月31日、久々に日銀の黒田総裁のバズーカが鳴り響きました。この時期の追加緩和についてはいろいろな憶測がありますが、2012年9月から続いたアメリカの第三段目の金融緩和がその二日前に終了し、世界の投資家達が今後の市場の行方に不安を感じていたという絶妙のタイミングでの発表だけに、ここで一気にアメリカ、ひいては世界の市場を援護射撃しようということだったのかもしれませんが。実際、今回の追加緩和で投入される30兆円は、1か月単位にすると200億ドル強となり、FRBが投入してきた7月の350億ドル、8月の250億ドル、9月の150億と比べ遜色ない規模です。さらに、12月上旬あたりに安倍総理が消費税の追加増税を判断するというタイミングからしても、増税派の黒田総裁としては、GPIFの投資先変更発表に加え、ここで一気に株価を刺激して、何とんでもこの機に10%を実現したい思惑もあったのでしょうか。

このように後になって考えてみると、このタイミングでの追加緩和は充分予想出来たと思うのですが、不思議なことに、この時期を予想していた専門家はほとんどいなかったようです。中長期的にみて日本株に強気な専門家の間でも、追加緩和は来年で、少なくとも年内は相場が低迷すると予想していました。何よりも、今回の発表に対する反応の大きさが、皆の予想と反していた証明といえるでしょう。そのように考えると、去年の4月の時もそうでしたが、黒田総裁は人の裏をかく天才なのかもしれませんね。

今回のさらなる異次元の追加緩和に関しては、世界中で賛否両論がかわされており、意見や解説するのはそちらに任せることにしましょう。ただ一つ述べるとすれば「皆が一致して賛成する時ほど危険である」ことを考えると、異常に見える割には、最悪の手段でもないのかもしれないと感じることで。

我々は評論家ではないので、大事なのはこの結果何が起こるか、そして何をすればいいかを考えることです。かなりはっきりしていることは「円安」と「資産バブル」の進展ではないでしょうか。「円安」についてはもう既に随分と進行してきましたね。黒田総裁の言うインフレがどの程度起こるかどうかはわかりませんが、今後は株式や、都心を中心とした不動産価格がさらに上昇していくのでしょうか。つまり、以前から指摘している「日本円」の「現金」を持つリスクがさらに大きくなることだと思います。一方では、これからまだまだ投資のチャンスが期待できる時期だとも言えます。いずれにしても「銀行預金」にかわる、信頼のおける投資先をしっかりと選び、実行することが大切です。

さてクローバーの運用の方ですが、10月の下落時に個別ファンドを仕込んだ分を、ちょうどそろそろETFで売却をと考えていたときに、追加緩和の発表があり相場を大いに上げてくれたので、ちょっと得した気分で月末を迎えることが出来ました。どっしりした長期の投資家がいらない日本の株式市場は、ヘッジファンドの暗躍の場になっており、その為、市場規模の割に異常な乱高下があります。我々は、さまざま思惑にまどわされることなく「下がってよし、上がってよし」の心境で、長期の安全運転を心掛けていきたいと思っています。

セミナーのご案内



『凄腕』ファンドマネージャーの 日本株式マーケットの見通し

【日時】 2014年11月22日(土) 13:30~15:30(開場13:00)

【会場】 メガネの三城 心齋橋本店3Fサロン
大阪市中央区心齋橋筋1-4-26

【費用】 無料(交流会参加の場合は1,000円)

【定員】 40名

【講師】 コモンズ投信 糸島 孝俊氏
弊社代表 多根 幹雄



糸島 孝俊氏



わが国革新性長企業投資の魅力 ~高成長割安50社パッケージを貫く熱い理念と慎重な手法~

【日時】 2014年12月5日(金) 18:00~20:00(開場17:30)

【会場】 ポーラ銀座ビル 4Fミキシムギンザ内
東京都中央区銀座1-7-7

【費用】 無料(交流会参加の場合は1,000円)

【定員】 33名

【講師】 エンジェルジャパン・アセットマネジメント
代表 宇佐美 博高氏
インベストメント・マネジャー 柳葉 徹氏
弊社代表 多根 幹雄



宇佐美 博高氏



柳葉 徹氏

お申込み

クローバー・アセットマネジメント

03-6262-3923

または

gyoumu@clover-am.co.jp

『時×空』投資で創る自由な未来

clover
asset management

■当セミナーでは、クローバー・アセットマネジメント株式会社が設定・運用・販売を行う投資信託の勧誘を行うことがあります。■投資信託は預貯金と異なり、投資元本が保証されているものではありません。投資による利益および損失は、すべて受益者(投資者)の皆様に帰属します。■当セミナーで示された数値、見通し等は、講演会開催時点のものであり、その正確性を保証するものではなく、将来予告なく変更されることがあります。将来の企業業績、市場環境の変化および運用成果等を保証するものではありません。

ファンド概況

基準価額	11,539円	純資産総額	3,293百万円
設定日	2013年4月15日		
信託期間	無期限		
決算日	毎年2月25日		

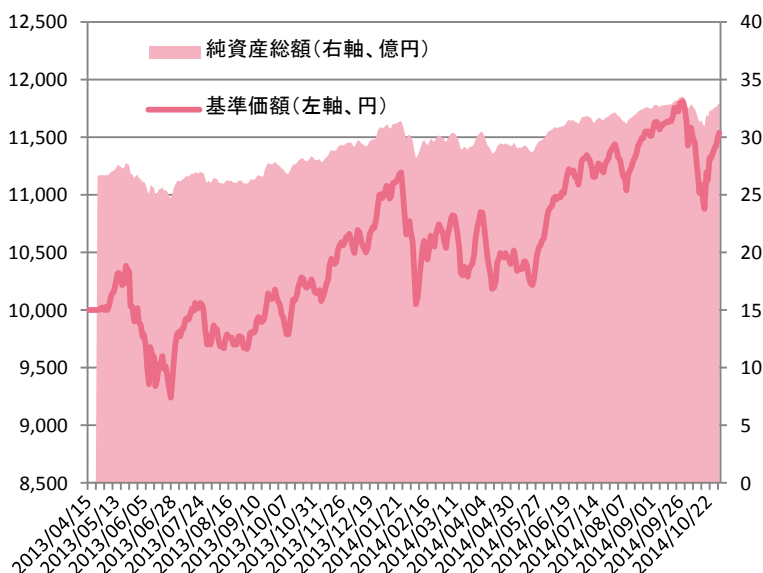
期間別騰落率(%)

1か月	3か月	6か月	1年	3年	設定来
-2.29	0.87	10.95	12.82	—	15.39

分配金(円)

1期 ('14/2/25)	2期	3期	累計
0	—	—	0

基準価額と純資産総額の推移



運用コメント

10月の株式市場は、米国の金融緩和の終了の月にふさわしい激しい動きに翻弄されました。牽引役であったドイツをも巻き込んだヨーロッパの不調、エボラ出血熱の欧米への拡大などの不安要素により、前半の米国株式市場は、大きく下落、日本市場も少なからず影響を受けました。ドル円相場も109円周辺から、中旬では106円へと一気に円高に振れています。

しかし、10月29日FOMC終了後の発表で、量的緩和終了のメッセージとともに「資産買い入れ終了後も相当な期間、事実上のゼロ金利を維持する方針」が発表され、翌日のNY市場は、7-9月のGDPが予想を上回ったこともあり200ドルを超える大幅上昇となりました。

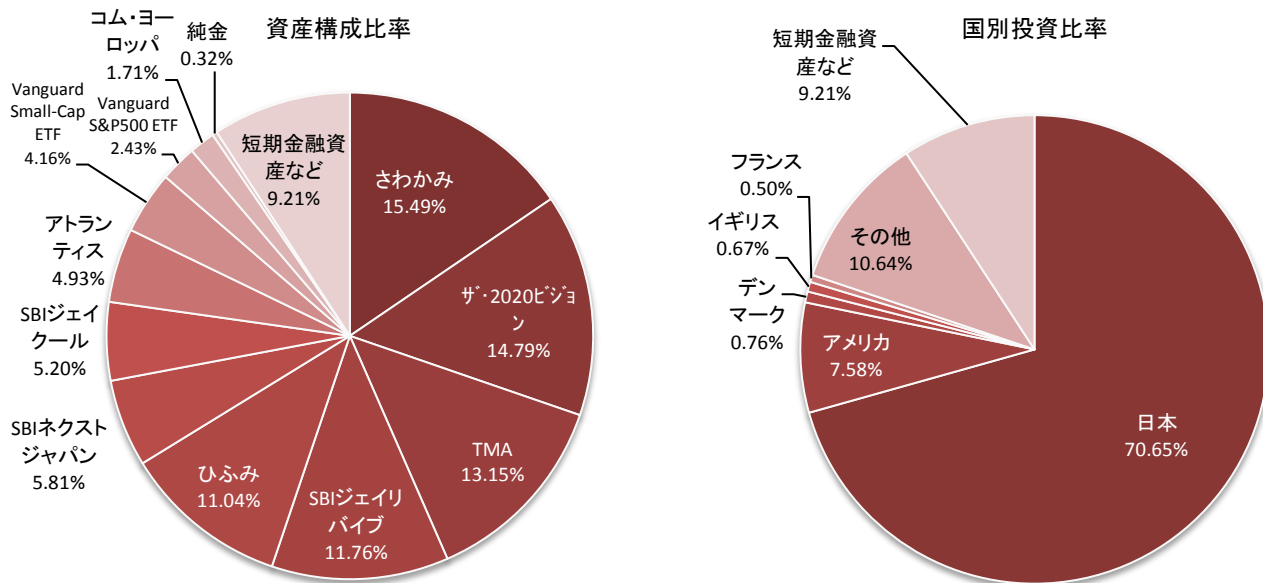
一方、日本では31日、日銀の黒田総裁が「量的緩和拡大」を発表、GPIFの投資比率の変更（国債から大幅に株式へシフト）と合わせて日本株式市場に大きなインパクトを与え、欧米株式市場へもプラスの影響を与えました。10月31日だけで、ドル円は、109.18円から112.48円へと一気に円安が進みました。

こうした中、コドモファンドは、10月の米国の量的緩和終了に伴う株価下落を想定して、8、9月の米株式市場上昇局面でバンガードS&P500ETF、バンガードスモールキャップETFを徐々に売り始めていました。9月末時点で22%程度キャッシュを準備、10月中旬の下落局面で日本株の個別株ファンドに大きく追加投資いたしました。

10月末の時点では、残念ながら、前月比-2.29%という結果に終わりましたが、月末の株式市場の高騰のファンド基準価額への反映は、11月に入ってからとなっています。

今後も株価が調整する場面では積極的に買いを入れてゆきたいと思っております。

ポートフォリオの状況



※アトランティス・ジャパン・オポチュニティーズ・ファンドおよびザ・2020ビジョンについては2014年9月末の情報を使用しております。

コドモファンド純資産総額に対する上位組入れ銘柄・比率 (ETFは除く)

(組入れ銘柄数: 526銘柄)

順位	銘柄名	業種	組入れ比率	組入れファンド名
1	トヨタ自動車	世界最大級の自動車メーカー	0.867%	さわかみ
2	ブリヂストン	世界最大手のタイヤメーカー	0.685%	さわかみ
3	キーエンス	ファクトリーオートメーション用センサの製造	0.552%	TMA長期投資
4	シマノ	バイシクル、釣具、ボート等を製造	0.526%	TMA長期投資
5	ソニー	テレビ、デジタルイメージング、半導体等の製造・販売	0.503%	ザ・2020ビジョン
6	日立物流	日立グループの総合企業物流	0.488%	ザ・2020ビジョン
7	CYBERDYNE	サイバニクス技術が駆使されたロボットスーツ HAL®を、医療・介護・福祉、重作業、エンターテインメント等で展開するために設立された大学発ベンチャー	0.488%	ザ・2020ビジョン
8	デジタルアーツ	Webフィルタリングや電子メールフィルタリングなどの情報漏洩対策ソリューションの提供など、フィルタリング技術を核にした情報セキュリティ事業を展開	0.488%	ザ・2020ビジョン
9	日立化成	半導体用材料、無機材料、樹脂材料、配線板材料、自動車部品、蓄電デバイス、電子部品、診断薬・装置など幅広い分野で事業を展開している化学メーカー	0.488%	ザ・2020ビジョン
10	ミスミグループ本社	機械加工製品の企画・販売	0.487%	TMA長期投資

ファンドの特色

①「長期投資」

世界経済は大きなサイクルでダイナミックに変化しており、それに伴って、株式や債券、商品、不動産等の資産価格も変動しています。短期的な動きには追従せずに、長期的な視点で世界を俯瞰した運用を行います。

②「分散投資」

政治・経済の様々なリスクに対応するために、国や地域、資産そして時間を分散させます。分散投資をより効率的に行うために、国内外の複数のファンドに投資します。

③「厳選したファンド」

当ファンドの目的や運用方針を共有できる運用会社を厳選し、その会社が運用するファンドに投資します。また組入れにあたっては、国内外のETF(上場投資信託証券及び上場投資証券)に投資する場合があります。

ファンドにかかわるリスク

当ファンドは、値動きのある国内外の株式等に投資する投資信託証券に投資しますので、基準価額はその影響を受け変動します。

投資信託は預貯金と異なり、投資元本が保証されているものではありません。投資による利益および損失は、すべて受益者(投資者)の皆様に帰属します。

基準価額の主な変動要因としては、価格変動リスク、信用リスク、流動性リスク、為替変動リスク、カントリーリスク等があります。リスクについての詳細は投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

<お申込みの際は、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください>

ファンドにかかわる費用

購入・換金手数料	ありません
信託財産留保額	ありません
運用管理費用 (信託報酬)	年率1.08%(税抜き1.0%) 組入れ投資信託証券も含めた実質的な負担 年率1.7±0.25%(概算)
その他費用・ 手数料	信託財産に関する租税、投資対象とする投資信託証券の売買に発生する売買委託手数料及びその手数料に対する消費税相当額等の費用、外貨建資産の保管等に要する費用は、お客さまの負担として、信託財産中から実費を負担します。

業務管理部からのお知らせ

紅葉の美しい季節となりました。
日毎に寒さが増す今日この頃、皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。

【特定口座の源泉徴収区分の変更について】

「特定口座をご利用いただいているお客様の、2015年適用分源泉徴収区分の変更受付を開始しております。
「源泉徴収あり・なし」の変更をご希望のお客様は、**2014年12月5日（金）まで**に、お電話にて「特定口座源泉徴収選択届出書」をご請求くださいますようお願い致します。

■ご注意■

1. 源泉徴収区分の変更は、1年の最初の決済後は変更できません。（分配金の授受も含まれます。）
2. **2014年12月30日（火）約定分**（12月26日（金）入金分）のお取引より、2015年分の適用となります。
3. 源泉徴収区分の変更は、お客様からのお申し出がない場合は、前年の区分が継続されます。

【ご登録内容の変更はございませんか？】

投資信託説明書（交付目論見書）を皆さまのもとへ確実にお届けするために、ご住所・電話番号・Eメールアドレス等に変更がないか、いま一度ご確認ください。

投資信託説明書（交付目論見書）以外にも、お取引に関する重要な書類や大切なお知らせもございますので、ご登録内容に変更がございましたら、下記の手順にてお手続きをお願いします。

- ①「登録事項変更届」の用紙を弊社ホームページまたはお電話にてご請求ください。
- ②「登録事項変更届」にご記入のうえ、ご返送ください。
※弊社ご登録印であることをご確認ください。
※新住所が記載された「ご本人様確認書類」（運転免許証の写し・住民票等）をご同封ください。
- ③後日、弊社より「登録内容変更の控え」を発送いたしますので、内容をご確認ください。
なお、**メールアドレスのご変更は、弊社ホームページまたはお電話でもお手続きを承ります。**

<ホームページの場合>

「各種お手続き」→「メールアドレス・レポート受取方法変更」フォームよりご連絡ください。

<お電話の場合>

「メールアドレスが変更となった」旨をお申し出ください。

【毎月つみたてスケジュール】

引落開始月	新規申込・引落口座 変更締切日	引落金額変更・ 中止・再開締切日	引落日	約定日
平成26年12月	受付終了	11月21日（金）	12月5日（金）	12月17日（水）
平成27年1月	12月3日（水）	12月17日（水）	1月5日（月）	1月16日（金）

※毎月つみたてサービスの金額変更・中止・再開については、お電話でも承っております。その際、ご本人様確認（氏名、住所、現在の契約内容等）をいたしますので、予めご準備をお願いいたします。

クローバー・アセットマネジメント株式会社 業務管理部（受付時間：平日9時～17時）

TEL: 03-6262-3923 / E-mail: gyoumu@clover-am.co.jp

当資料のご利用にあたっての注意事項

■当資料はクローバー・アセットマネジメント株式会社が運用するファンドの運用状況をお知らせするために作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。取得の申込みにあたっては、投資信託説明書（交付目論見書）等をお渡ししますので必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。■投資信託は、値動きのある有価証券等（外貨建資産に投資する場合は、為替変動リスクもあります）に投資いたしますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の皆様は投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。■運用による損益は、すべて投資者の皆様へ帰属します。■当資料に記載された過去の実績は、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。■当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。■当資料中に示された意見等は、作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。■投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。■投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。■登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。